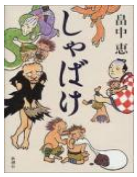
図書館NEWS　夏の特大号

「鹿男あをによし」（著者：万城目学）

「ねえ、藤原君「あをによし」って知ってる？え？知らないんですか先生？」
「知らないよそんな言葉。そりゃあいけません、奈良に来て「あをによし」を知らないのはいけません。和歌の枕詞ですよ、「たらちねの」なら「母」とくるように「あをによし」ときたら「奈良」とくるわけです。」
あをによし　奈良の都は　咲く花の　薫ふがごとし　今盛りなり
「さあ神無月だ、出番だよ、先生。」
二学期限定で奈良の女子高に赴任した28歳の俺。 ちょっぴり神経質な彼に下された、空前絶後の救国指令？！
ドラマ化も果たした名作！あなたも現実離れした世界観を旅しませんか？

「しゃばけ」（著者：畠中恵）

江戸通町にある大店廻船問屋長崎屋の跡取り息子である一太郎は、とんでもなく体が弱く、すぐ寝込んでしまう。そんな若だんなの周りには、兄やである2人の手代をはじめ、屏風のぞきや鳴家（やなり）など、妖（あやかし）達が大勢いる。
ある夜、こっそり外出した若だんなは、なんと殺人事件に遭遇してしまう！妖たちの力を借りて下手人探しに乗り出したものの……？
心優しい若だんなと妖たちが繰り広げる愉快で不思議な人情推理帖！累計670万部を超える人気シリーズの第1作目です。
時代物ですが堅苦しくないのでおすすめです。



「火花」　（著者：又吉直樹）

この本は、お笑い芸人のピース又吉さんのデビュー作です。物語は二人のお笑い芸人が出会い先輩と後輩として師弟関係を組む所から始まります。自分の信念にそったお笑いを追及するが故に全く売れない師匠とそれを見て自分はどんな芸人として生きていくのか苦悩する弟子。
作者自身がお笑い芸人であるため
とてもリアルな描写が描かれています。
笑いとは何か?人間が生きるとは何か？
を考えさせられます。

「龍神の雨」　（著者：道尾秀介）

添木田蓮と楓は事故で母を失い、継父と3人で暮らしている。溝田辰也と圭介の兄弟は、母に続いて父を亡くし、継母とささやかな生活を送る。蓮は継父の殺害計画を立てた。あの男は、妹を酷い目に遭わせたから。――そして、死は訪れた。降り続く雨が、4人の運命を浸してゆく。その雨がもたらすのは幸福か、絶望か。あなたの胸に永劫に刻まれるミステリ。

全く先が読めないのに、読後に数々の伏線が張り巡らされていたことに気づき圧倒されます。
個性的な世界観と急展開に、ページをめくる手は止まらないはず。最後までノンストップで読んでしまうこと間違いなし。
ぜひ夏休み、刺激的なミステリを読んでみては？

「三匹のおっさん」　（著者：有川浩）

定年退職後、近所のゲーセンに再就職した、腕に覚えありの剣道の達人キヨ、こと清田清一。同じく武闘派の柔道家で、居酒屋「酔いどれ鯨」の元亭主シゲ、こと立花重雄。機械をいじらせたら無敵の頭脳派、愛娘にはめっぽう弱い機械工場経営ノリ、こと有村則夫。
かつての悪ガキたちが結成した私設自警団「三匹のおっさん」。
孫と娘の高校生コンビも手伝って、詐欺に痴漢に動物虐待……。
三匹がご町内の悪を斬る――！
ぜひ読んでみてください。

「ビリギャル」（著者：坪田信貴）

高2の夏にして学力は小4レベル、全国模試の偏差値は30、英語はかろうじてローマ字が読める程度だった金髪ギャルのさやかが、塾講師である著者・坪田信貴から心理学を駆使した指導を受けてやる気に目覚め、1年で英語の偏差値を40上げ、ついには最難関レベルの私立大学である慶應義塾大学に現役合格するまでの1年半を綴ったノンフィクション小説です。読んだらきっと「ゼッタイ無理」に挑んでみたくなる勇気をもらえる青春ストーリーです！

「フリーター、家を買う。」　（著者：有川浩）

就職先を3か月でやめて以来、自堕落気ままに親のすねをかじって暮らす“甘ったれ”25歳が、母親の病を機に一念発起。バイトに精を出し、職探しに、大切な人を救うために、奔走する。本当にやりたい仕事って？やりがいって？　自問しながら
主人公が成長する過程と、
壊れかけた家族の再生を描く、
愛と勇気と希望が結晶となった
ベストセラー長編小説。
ドラマにもなった人気作です。
ぜひ読んでみてください！

「すべてがFになる」（著者：森博嗣）

14歳のとき両親殺害の罪に問われ、外界との交流を拒んで、孤島の研究施設に閉じこもった天才工学博士、真賀田四季。教え子の西園寺萌絵とともに、
島を訪ねたN大学工学部助教授、
犀川創平は1週間、外部との交信を
絶っていた博士の部屋に入ろうとした。
その瞬間、進み出てきたのは
ウエディングドレスを着た女の死体。
そして、部屋に残されていた
コンピュータのディスプレイに記されて
いたのは「すべてがFになる」
という意味不明の言葉だった。
新しい形の本格ミステリー、謎を解いてみてください。

「週末のフール」（著者：伊坂幸太郎）

「八年後に小惑星が衝突し、地球は滅亡する。」
そう予告されてから五年が過ぎたころ。当初は絶望から
パニックに陥った世界も、いまや平穏な小康状態にある
。仙台北部の団地「ヒルズタウン」の住民たちも同様だった。
彼らは余命三年という時間の中で
人生を見つめなおす。
　貴方がもし、地球滅亡の知らせを聞いたら
まず真っ先に何をしますか？友達に会いに行ったり、
恋人に会いに行ったり、運命を恨んだり、
そんなことあるわけないと
普段通りの生活をしたり・・・。
人によって様々だと思います。
果たして世界の終末を前にした
人間にとっての幸福とは？

今日生きていることの意味が見つかる一冊です。

「夜のピクニック」恩田　陸

僕が、この本をおすすめするのは「歩行祭」という行事に魅
力を感じるからです。僕たちにも同じ緑歩会があり、２，３
年生はそのことを思い出し振り返りながら読むと主人公達
に共感できる部分がたくさんあると
思います。まだ緑歩会を
体験したことのない一年生は
この本を読めば緑歩会がとても
楽しみになると思います。
とても心が温かくなる
青春小説物語です。

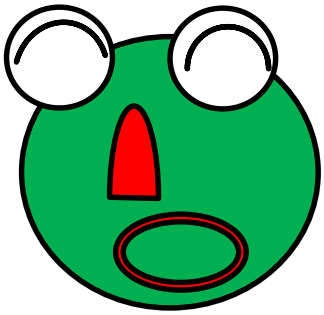
「ディズニーそうじの神様が教えてくれたこと」　（著者：鎌田　洋）

　誰もが知っている夢の国、東京ディズニーランドを舞台に、ウォ
ルト・ディズニーが最も信頼した清掃員、「そうじの神様」ことチャッ
ク・ボヤージン氏と、カストーディアル・キャスト（清掃スタッフ）達
が繰り広げる感動物語。
元オリエンタルランドの社員で、
初代ナイトカストーディアル
（夜間の清掃部門）のトレーナー兼
スーパーアドバイザーとして活躍し、
「ディズニーのサービス哲学の神髄」
を体験してきた鎌田洋氏が、
自身の体験に基づいて書き下ろした
感動ストーリー。物語を通して、

夢と感動で満ち溢れ、多くのゲストを魅了してやまないディズニー
ランドの秘密が明らかになるとともに、読む者に「働くことの本当
の意味」を問いかける。とても感動する話です。他にもシリーズが
あるので、そちらも併せて読んでみてください。

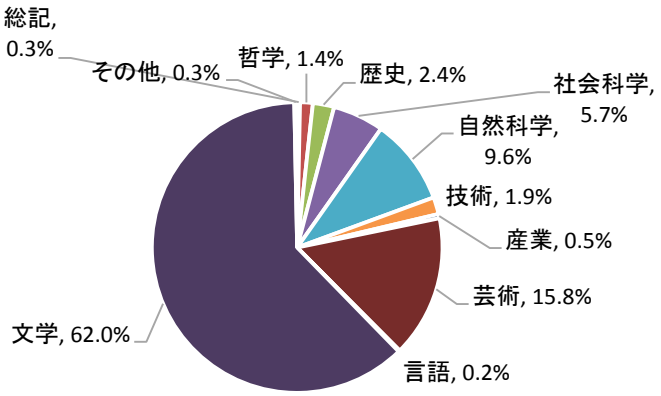
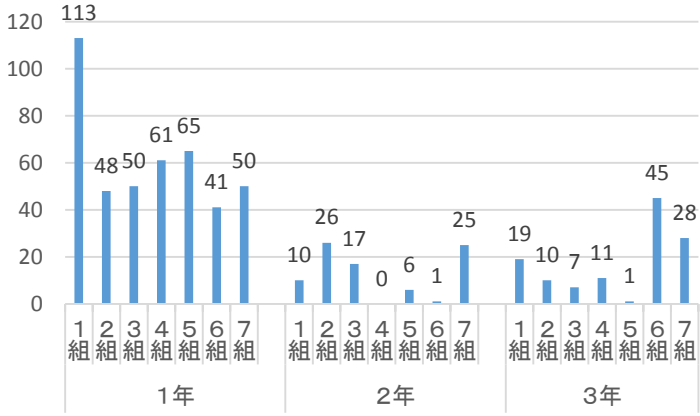
「プリンセストヨトミ」（著者：万城目　学）

このことは誰も知らない―五月末日の木曜日、午後四時のこ
とである。
大阪が全停止した。
長く閉ざされた扉を開ける鍵と
なったのは、東京から来た会計検査院
の三人の調査官と、大阪の商店街に
生まれ育った二人の少年少女だった――――。
映画化も果たしたこの作品は、
大阪を舞台にダイナミックな
展開が繰り広げられます。
歴史的要素も多く、高校生には
ぴったりの小説です。
映画を見たあなたも、
そうでないあなたもぜひ
万城目ワールドに浸ってください。



読書は楽しいなぁ・・・・・
三年図書委員

４～６月の分野別貸出割合



４～６月の貸出冊数